

インターネット社会の親子関係に関する意識調査報告書〔概要〕

—日本・米国・中国・韓国の比較—

このたび、国立青少年教育振興機構では、平成 29 年度に小中学生を対象として実施した標記の国際比較調査の結果を取りまとめたので報告する。

日本の小中学生の主な特徴 ※（ ）内は本概要の掲載ページ

1 親とよく話をしている (p.2~3)

日本の小学生は、親と「よく話をしている」と回答した割合が8割以上で、「親と話すのが好き」(「とても好き」「まあ好き」)の割合も9割強で、いずれも4か国中最も高かった。

2 親と一緒にテレビを見たり、出かけたりすることは多く、本を読むことは少ない (p.4~5)

日本の小中学生は、親と一緒にテレビを見ることが「よくある」と回答した割合が約7割と、4か国中最も高かった。親と一緒に買い物や遊びに出かけることが「よくある」と回答した小学生の割合もトップとなっている。しかし、親と一緒に本を読むことが「よくある」「たまにある」と回答した割合は、日本の小中学生とも4か国の中で最も低かった。

3 インターネットの危険性などについて親から「ほとんど注意されない」割合が高い (p.12)

4か国の小学生の6割以上は、親は、私がインターネットをどのように利用しているか「よく知っていると思う」と回答した。日本の小中学生は、インターネットの危険性や利用におけるマナーなどについて、親から「ほとんど注意されない」と回答した割合が約3割で、4か国中最も高かった。

4 日本の中学生の4人に1人は親とよくSNSを利用してコミュニケーションをとっている (p.13)

日本の中学生の25%は、SNSを利用して親とコミュニケーションを「よくしている」と回答し、4か国中最も高かった。また、4か国の小中学生の約8割は、「親とはSNSや電話を介するよりも、直接話す方が好きだ」と回答した。

5 家族と一緒にいてもそれぞれがスマートフォンを操作している (p.14)

日本の小中学生は、家族と一緒にいてもそれぞれが自分の携帯電話やスマートフォンを操作していることが、「よくある」「たまにある」と回答した割合が小中学生とも約6割と、4か国中最も高かった。私が、親と話そうとすると、親は「時間がない」、「いま忙しい」などと言うことが、「よくある」「たまにある」と回答した割合は約4割で、こちらも4か国中最も高かった。

6 「親は携帯電話やスマートフォンを使用しながら私と話す」ことが「よくある」ほど、「親と一緒にいるのが好きだ」の肯定率が低い (p.16~17)

「親は携帯電話やスマートフォンを使用しながら私と話す」ことが「よくある」と回答した者ほど、親と話すのが「とても好き」、「親と一緒にいるのが好きだ」、家族と一緒にいるのが「とても楽しい」と回答した割合が低く、「家族と食事や団らんのときでもよく携帯電話を操作する」の肯定率が高かった。

【問い合わせ先】

国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1
TEL : 03-6407-7740 FAX : 03-6407-7689 Email kenkyu-soumu@niye.go.jp

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、小中学生のインターネット利用と親子関係の実態を把握し、またその関連性を分析することで、インターネット社会における親子関係のあり方を模索するに資する情報を得ることを目的とした。なお、この調査は、米国、中国、韓国でも実施しており、諸外国と比較することで、日本の特徴や課題を明らかにすることも目指している。

2 調査方法

	日本	米国	中国	韓国
調査機関	国立青少年教育振興機構	BuzzHunter(委託)	中国青少年研究センター	韓国青少年政策研究院
調査時期	2017年9月～11月	2017年9月～11月	2017年9月～11月	2017年9月～11月
学校数	小学校:12校 中学校:14校	小学校:8校 中学校:9校	小学校:24校 中学校:24校	小学校:19校 中学校:19校
調査地域	20地域	12地域	6地域 (各地域で都市部と郊外から小学校2校、中学校2校ずつ抽出)	16地域
調査方法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法
有効回答者数(票)	小学生:1056 中学生:1216	小学生:983 中学生:1034	小学生:2051 中学生:2092	小学生:948 中学生:988

3 調査対象者の基本属性

(%)

		小学生				中学生			
		日本	米国	中国	韓国	日本	米国	中国	韓国
性別	男	50.1	48.9	49.5	50.7	49.8	52.8	50.0	57.9
	女	49.9	51.1	50.5	49.3	49.2	47.2	49.8	42.1
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.2	0.0
学年	小5	51.1	48.7	50.1	49.3	-	-	-	-
	小6	48.9	51.3	49.9	50.7	-	-	-	-
	中1	-	-	-	-	48.5	61.2	51.4	49.8
	中2	-	-	-	-	51.5	38.8	48.6	50.2
実数(人)		1056	983	2051	948	1216	1034	2092	988

調査結果からみる日本の小中学生の特徴

1 親とよく話をしている

日本の小学生は、親（保護者）と「よく話している」と回答した割合が85%であり、「親（保護者）と話すのが好き」（「とても好き」「まあ好き」と回答した割合も91%で、いずれも4か国中最も高かった（図1、図4）。会話の内容は、「学校のこと」「友だちのこと」が多く、「自分の将来のこと」が4か国の中で最も低かった（図2～3）。

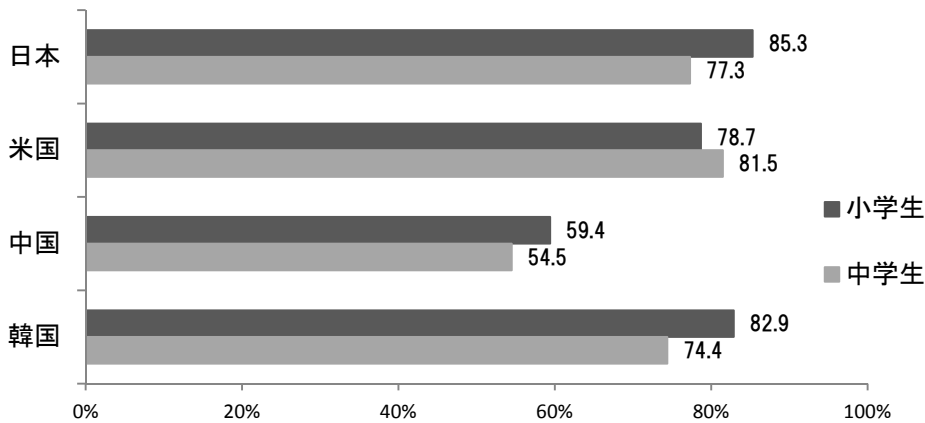


図1 ふだん、親(保護者)とどのくらい会話をしているか(「よく話している」と回答した者の割合)

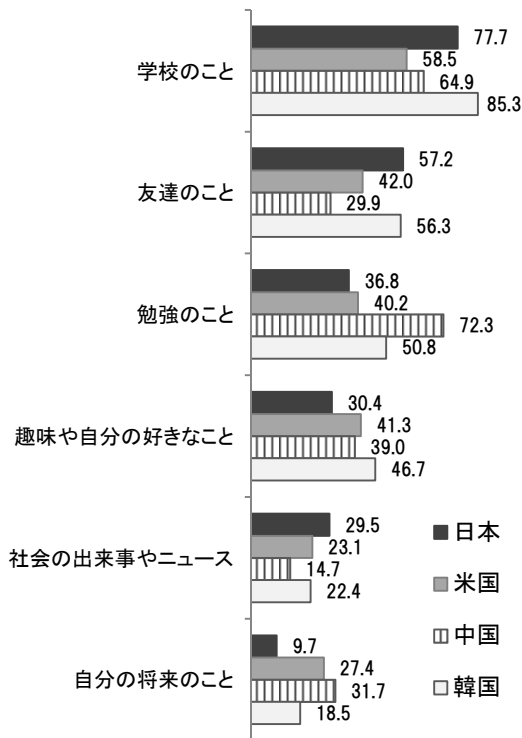


図2 (小学生) 親(保護者)と主にどのような話をしているか(三肢選択・一部項目)

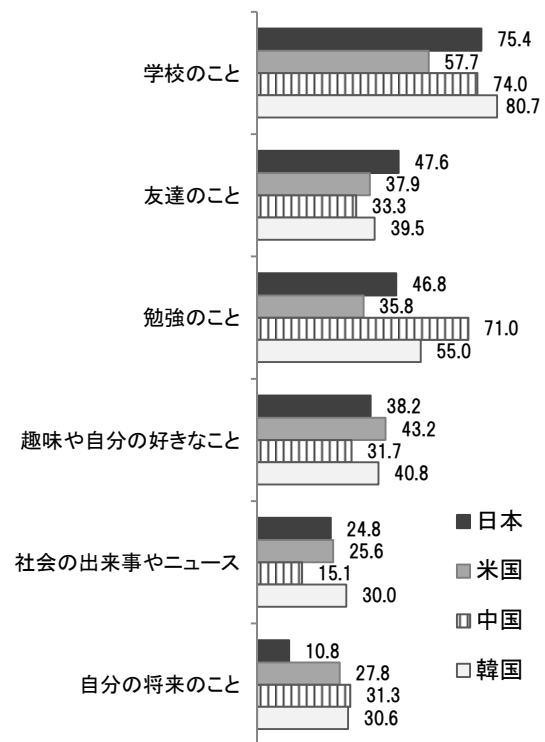
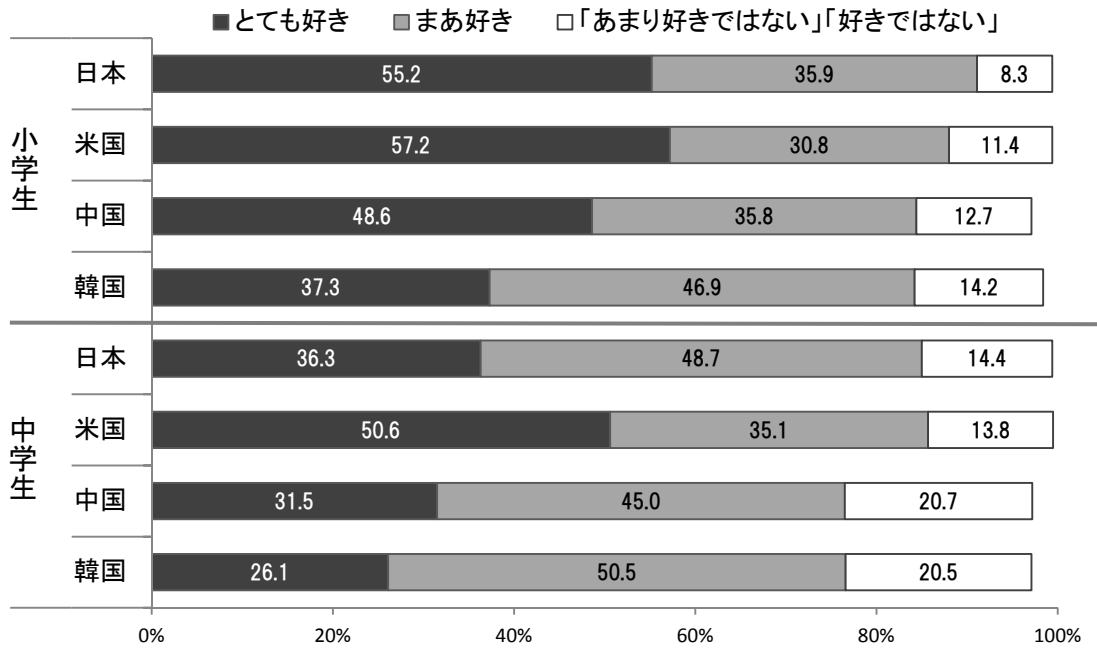


図3 (中学生) 親(保護者)と主にどのような話をしているか(三肢選択・一部項目)



* 「無回答」の割合を表記していない、以下同様。

図4 親(保護者)と話すのが好きですか

2 親と一緒にテレビを見たり、出かけたりすることは多く、本を読むことは少ない。

日本の小中学生は、親(保護者)と一緒にテレビを見るのが「よくある」と回答した割合が約7割と、4か国中最も高かった(図5)。また、親(保護者)と一緒に買い物や遊びに出かけることが「よくある」と回答した日本の小学生の割合は約66%と、米・中・韓に比べても高かった(図6)。しかし、親(保護者)と一緒に本を読むことが「よくある」「たまにある」と回答した割合は、日本の小中学生とも4か国中最も低かった(図7)。親(保護者)と一緒に運動することが「よくある」「たまにある」と回答した日本の中学生の割合も4か国中最も低かった(図8)。

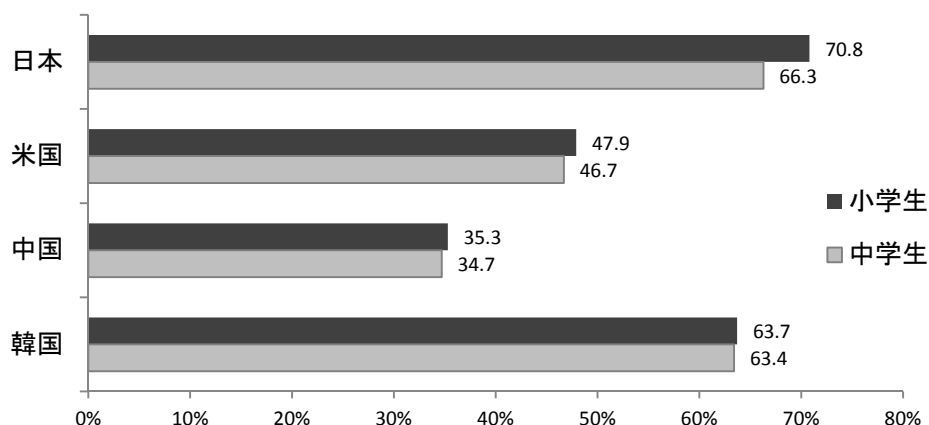


図5 親(保護者)と一緒にテレビをみるのが「よくある」

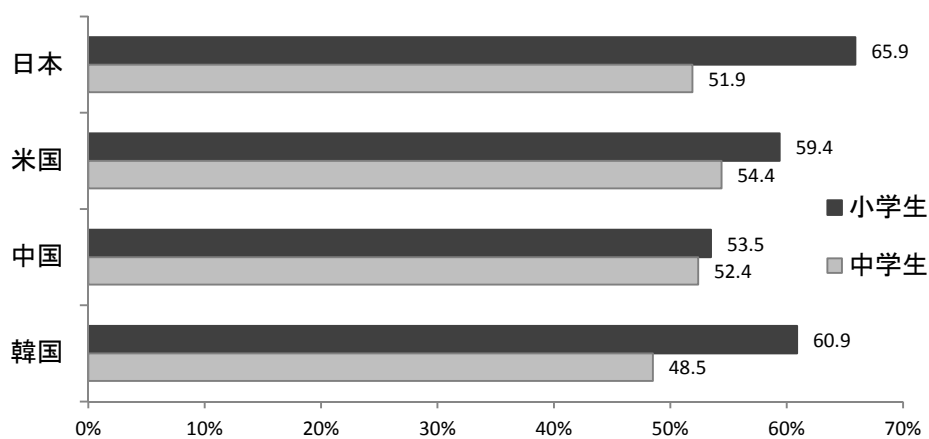


図6 親(保護者)と一緒に買い物や遊びに出かけることが「よくある」

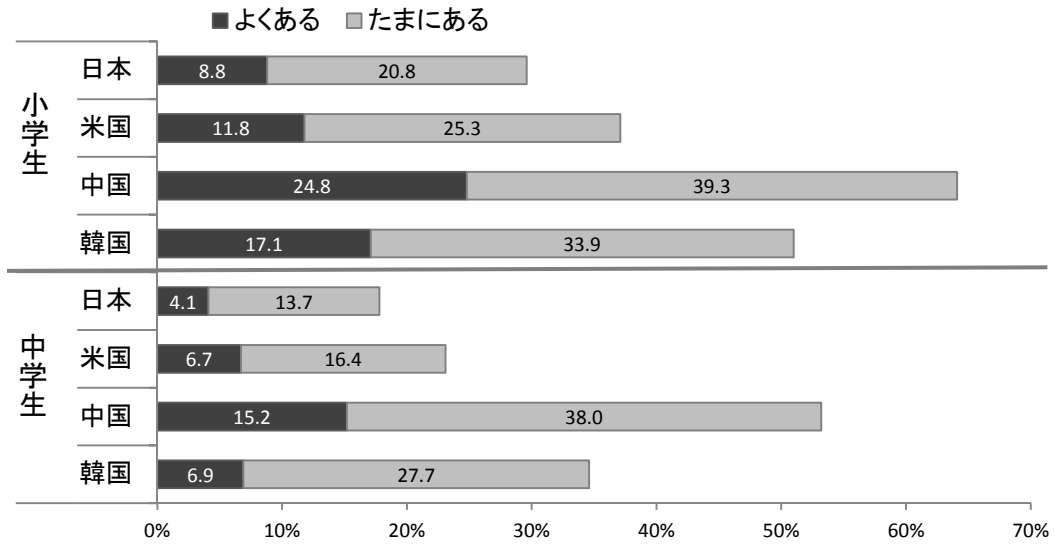


図7 親(保護者)と一緒に本を読むこと

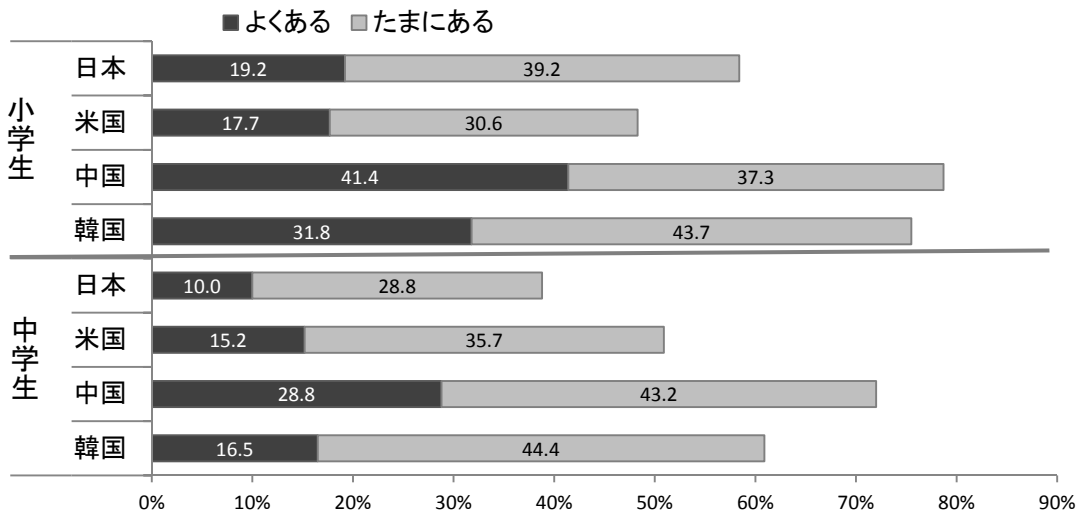


図8 親(保護者)と一緒に運動をすること

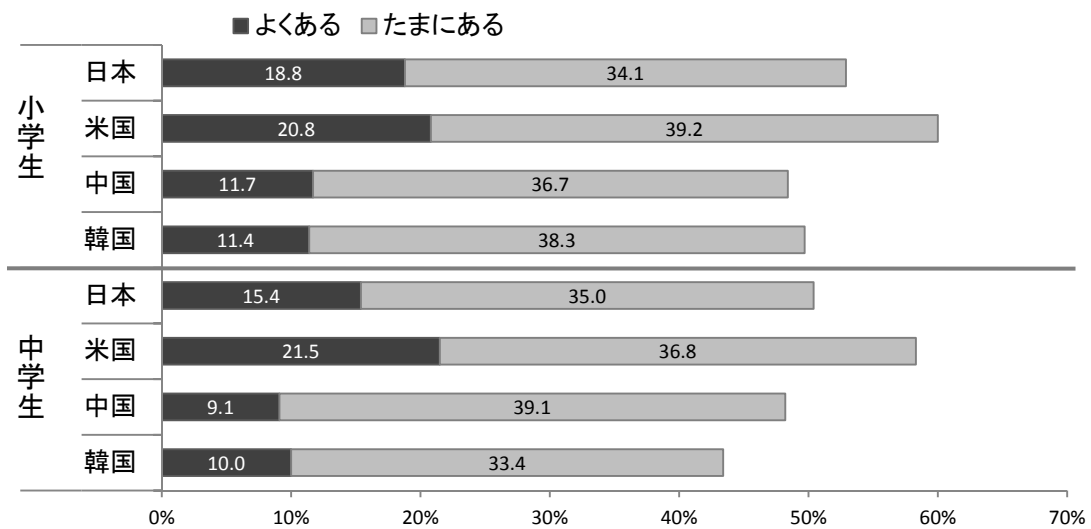


図9 親(保護者)と一緒にインターネットを利用すること

3 「親は、私を時々叱る」の割合が高く、「親は私を時々ほめる」の割合も高い

日本の小中学生は、「親(保護者)は、私を時々叱る」に対し、「そうだ」と回答した割合が約6割で、4か国中突出して高く、「親(保護者)は私を時々ほめる」の割合も4か国中最も高かった(図10~11)。高校生になると、その割合が大幅に減少している(本調査と同時期に実施した「高校生の心と体の健康に関する意識調査」)。また、「私は親(保護者)と一緒にいるのが好きだ」と回答した割合は小中学生及び高校生とも日本が4か国の中で最も低かった(図12)。

* 図10~14 高校生:「高校生の心と体の健康に関する調査」(平成30年3月)

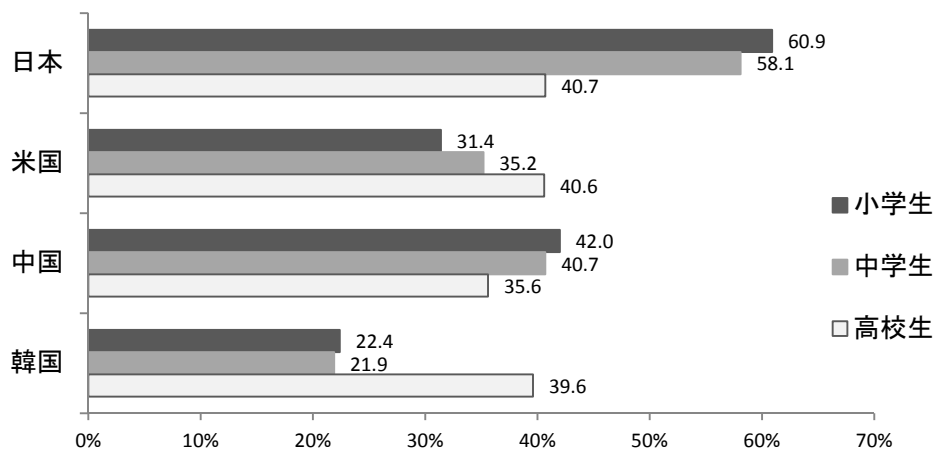


図10 親(保護者)は、私を時々叱る(「そうだ」と回答した者の割合)

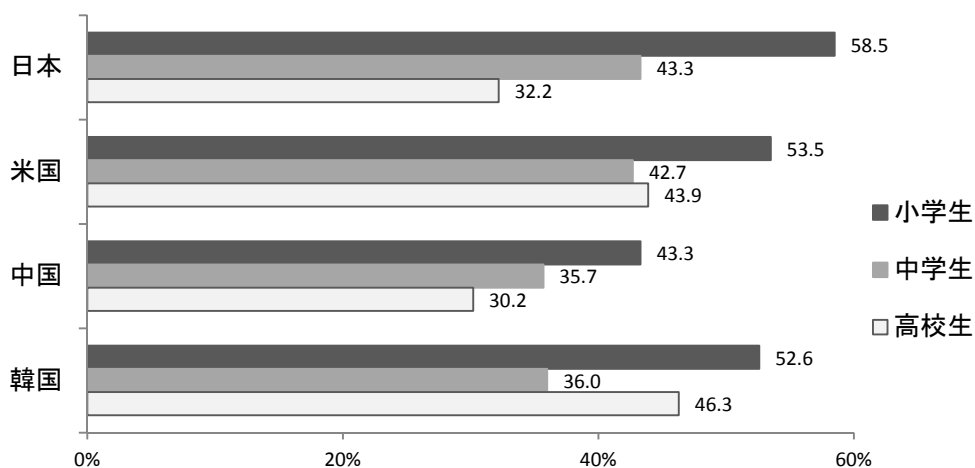


図11 親(保護者)は、私を時々ほめる(「そうだ」と回答した者の割合)

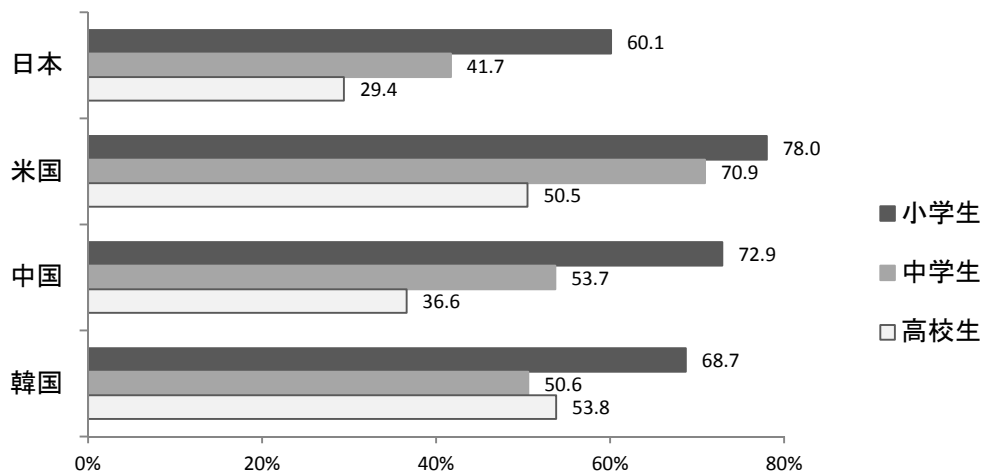


図 12 私は親(保護者)と一緒にいるのが好きだ(「そうだ」と回答した者の割合)

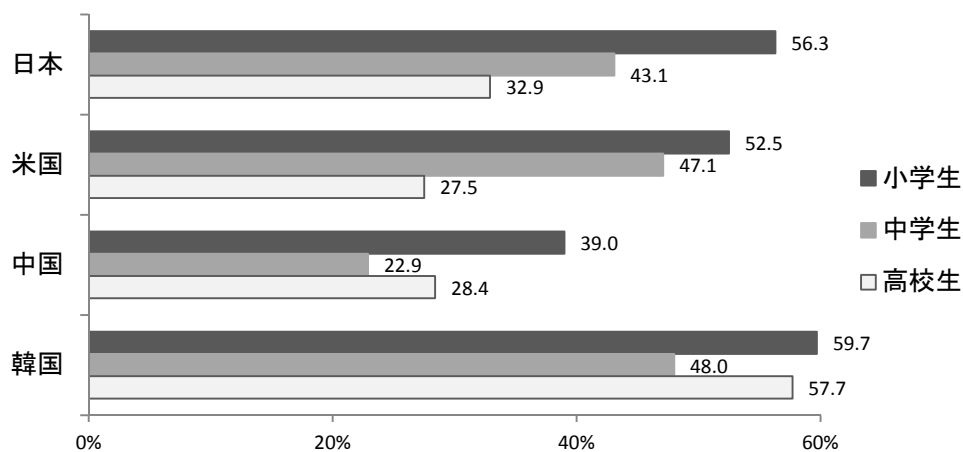


図 13 親(保護者)は、私のことを分かってくれる(「そうだ」と回答した者の割合)

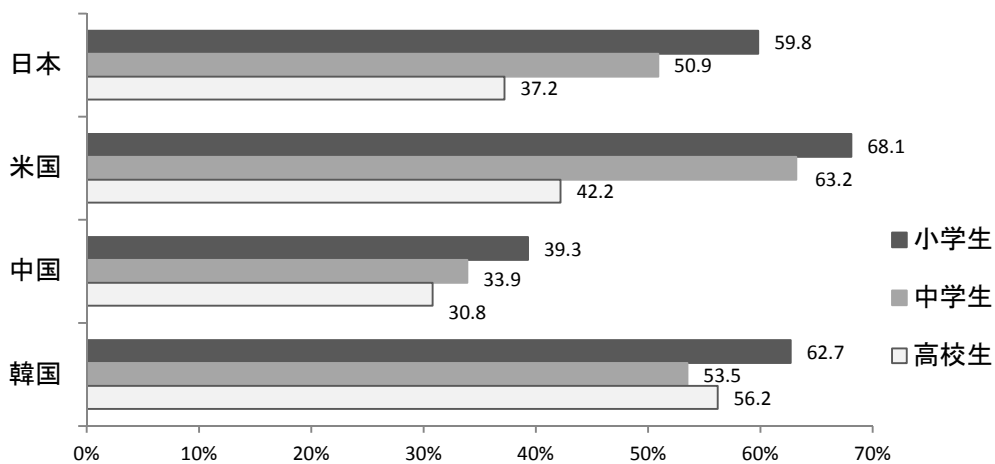


図 14 親(保護者)は、私の悩みを聞いてくれる(「そうだ」と回答した者の割合)

4 4か国の小中学生の8割以上は、「家族はできるだけ一緒に食事をしたり、話したり、行動したりする」ことが望ましいと思っている

4か国の小中学生の8割以上は、「家族はできるだけ一緒に食事をしたり、話したり、行動したりする」ことが望ましいと思っている（図15）。日本の小中学生は、「好きなことができるように互いのプライバシーは干渉しない」に対し、「あてはまる」と回答した割合が約3割で、他の3か国より高かった（図16）。また、「親を尊敬すべきだ」に対し、「あてはまる」「まああてはまる」と回答した割合が4か国中最も低く、「親の言うことには従うべきだ」も韓国に次いで低かった（図17～18）。

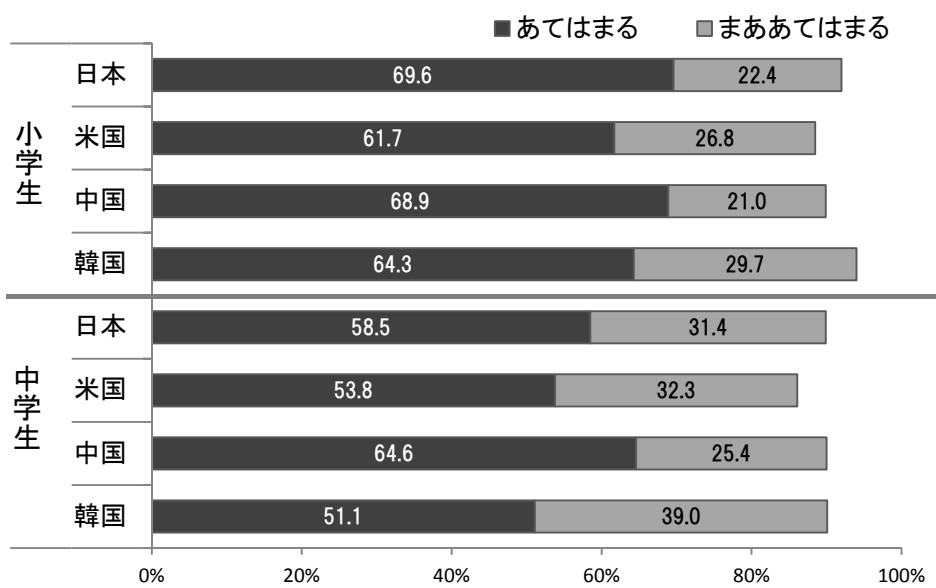


図15 家族はできるだけ一緒に食事をしたり、話したり、行動したりする

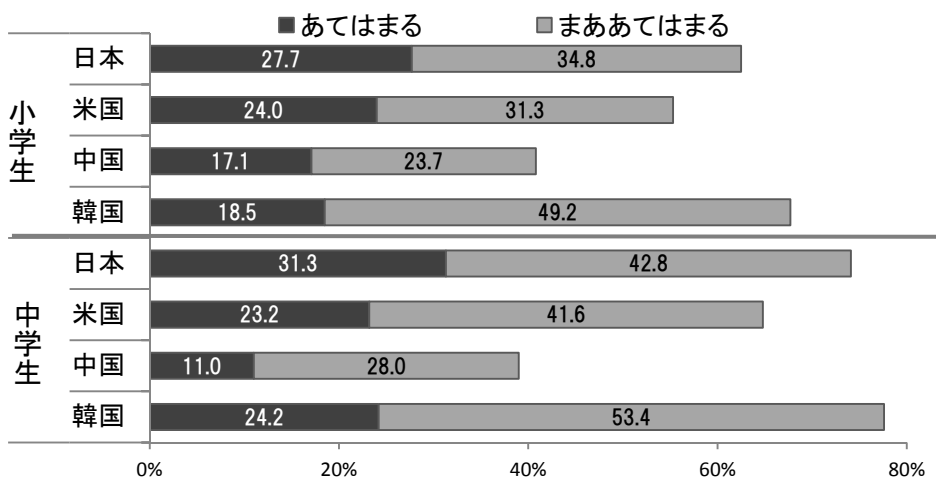


図16 好きなことができるように互いのプライバシーは干渉しない

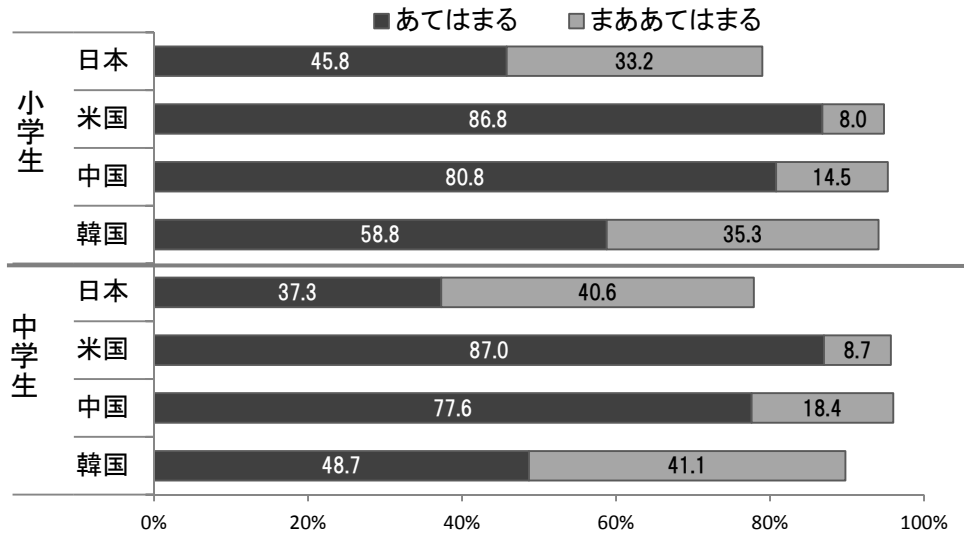


図 17 親を尊敬すべきだ

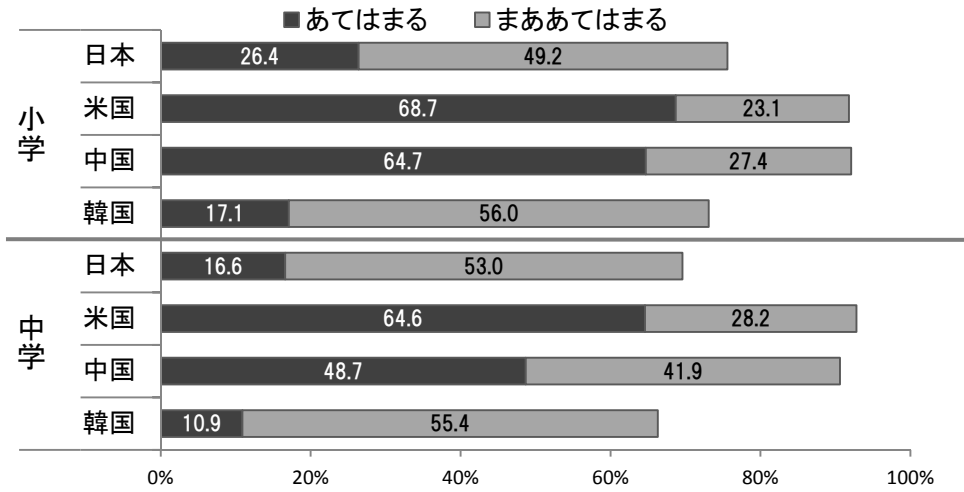


図 18 親の言うことには従うべきだ

5 スマートフォンの所持率が米・中・韓より低い

日本の小中学生は、「スマートフォン」「パソコン」「タブレット」の所持率がいずれも4か国中最も低かった（図19～20）。また、「インターネットを利用している」と回答した割合が約9割で、初めてインターネットを利用した平均年齢が小学生8.0歳、中学生9.4歳だった（図21、図23）。平日の1日でインターネットを「3時間以上」利用すると回答した割合が小学生13.9%、中学生24.1%で、米・韓より低かった（図24）。

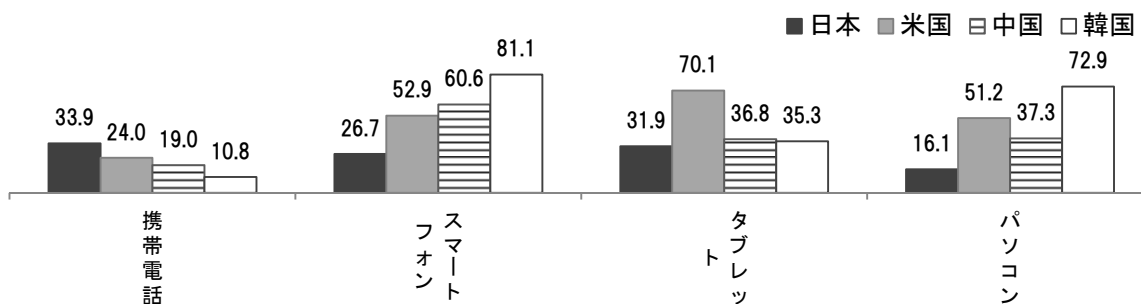


図19 (小学生)所有しているもの<複数回答>

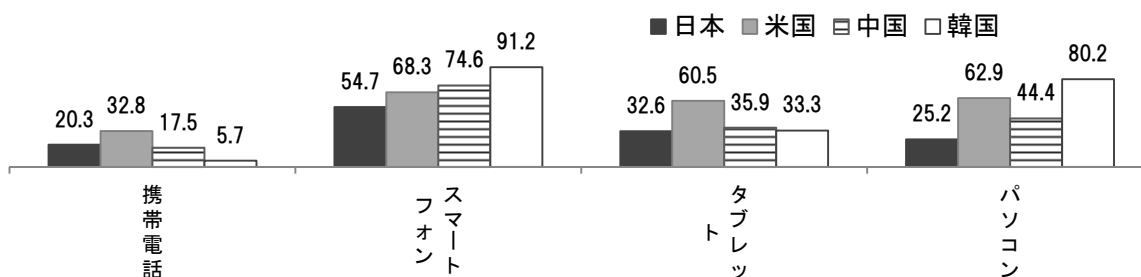


図20 (中学生)所有しているもの<複数回答>

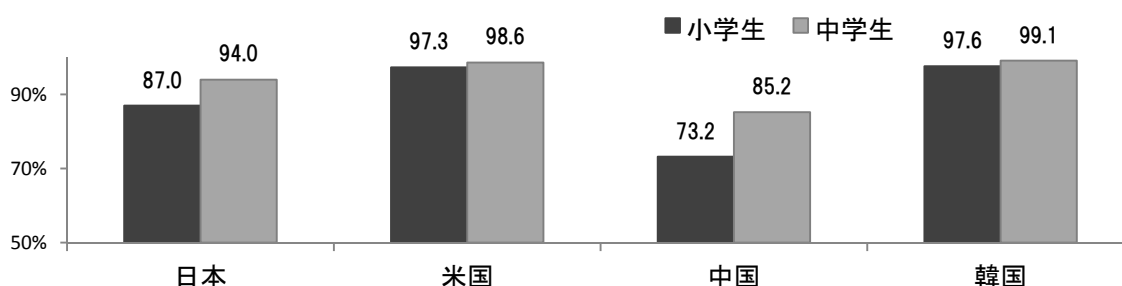


図21 インターネットを利用している

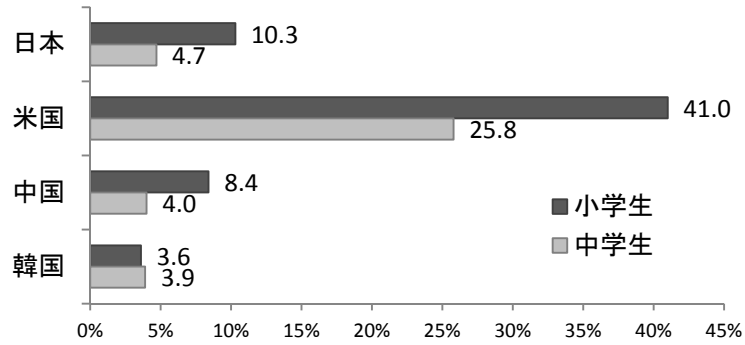


図 22 初めてインターネットを利用した年齢は「6歳未満」

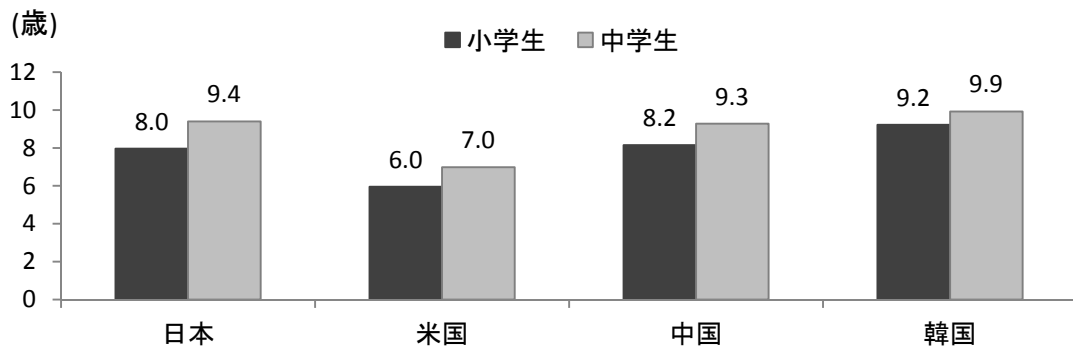


図 23 初めてインターネットを利用した平均年齢

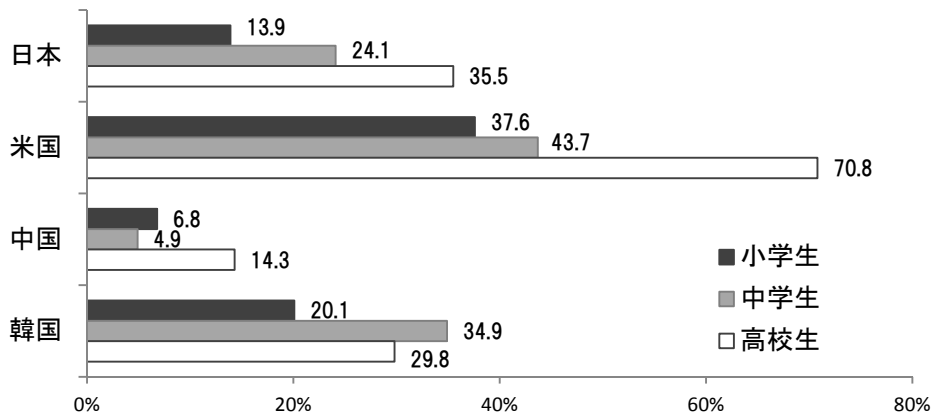


図 24 平日の1日でインターネットを「3時間以上」利用する

* 高校生:「高校生の心と体の健康に関する意識調査」(平成 30 年 3 月)

6 インターネットの危険性などについて親から「ほとんど注意されない」の割合が高い

4か国の小学生の6割以上は、親(保護者)は、私がインターネットをどのように利用しているか「よく知っていると思う」と回答した(図25)。日本の小中学生は、インターネットの危険性や利用におけるマナーなどについて、親(保護者)から「ほとんど注意されない」と回答した割合が約3割で、4か国中最も高かった(図26)。

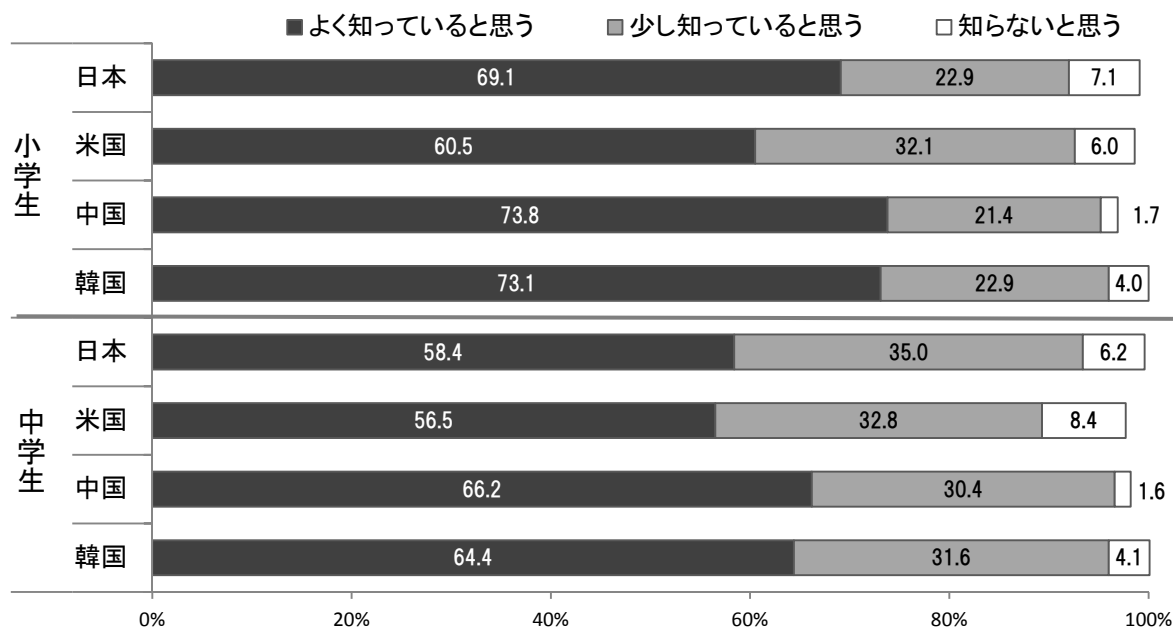


図25 親(保護者)は、あなたがインターネットをどのように利用しているか知っているか

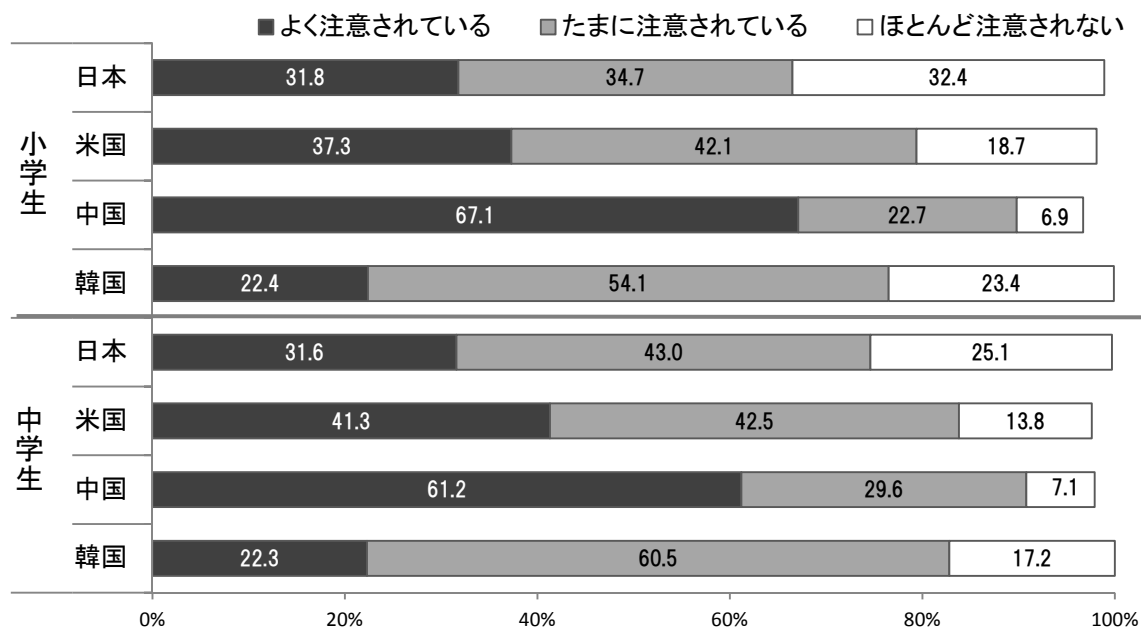


図26 インターネットの危険性や利用におけるマナーなどについて、親(保護者)から注意されているか

7 中学生の4人に1人が親(保護者)とよく SNS を利用してコミュニケーションをとっている

日本の中学生の 25%は、SNS を利用して親(保護者)とコミュニケーションを「よくしている」と回答し、米・中・韓に比べて高かった(図 27)。また、4か国の小中学生の約8割は、「親(保護者)とは SNS や電話を介するよりも、直接話す方が好きだ」と回答した(図 28)。

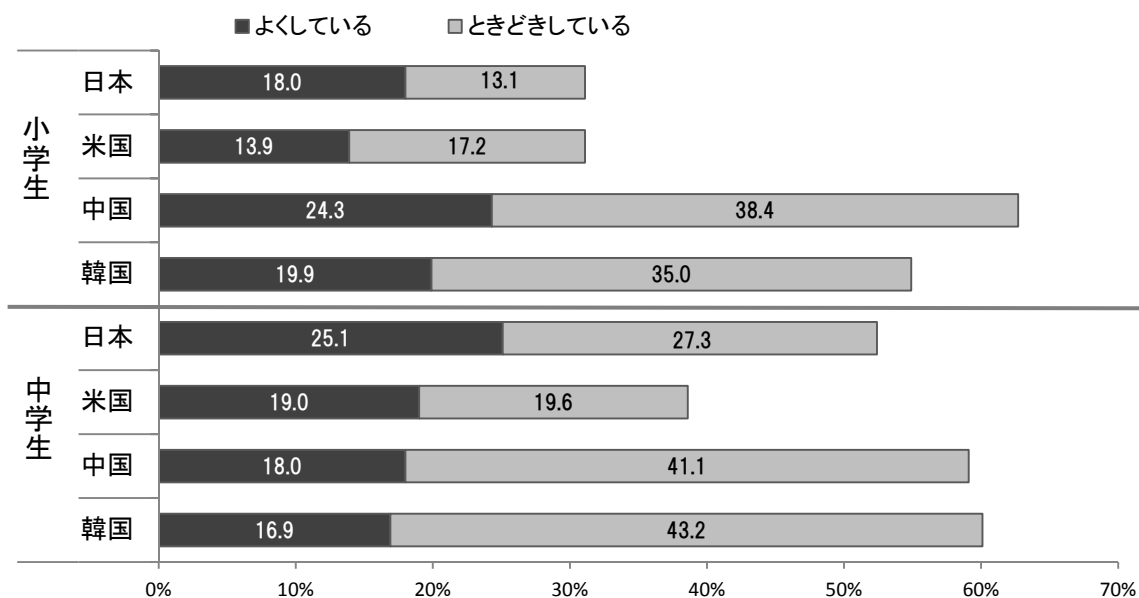
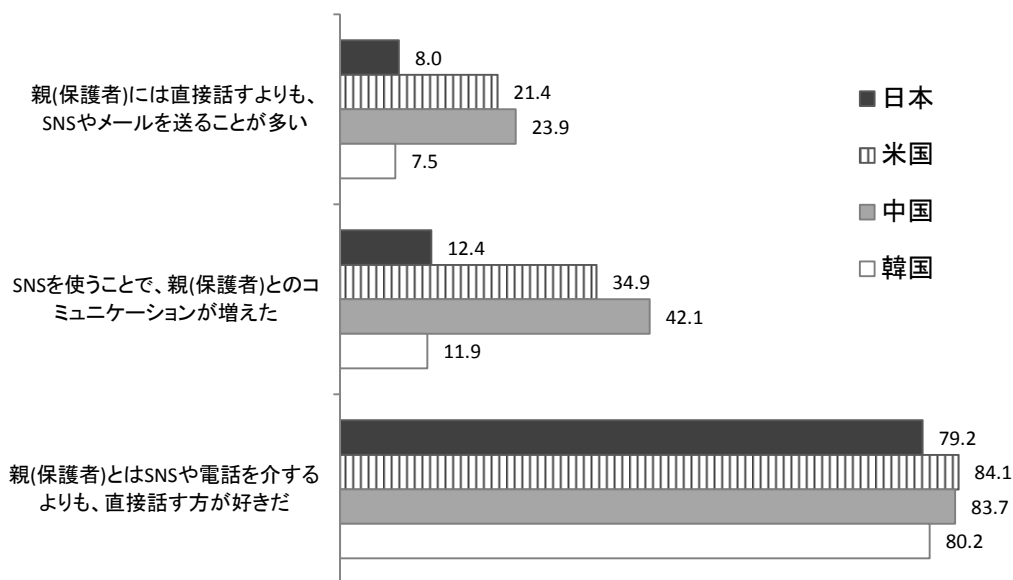


図 27 SNS を利用して親(保護者)とコミュニケーションしているか



「あてあまる」「まああてはまる」と回答した割合

図 28 親(保護者)とのSNSについて(小中学生全体)

8 家族と一緒にいてもそれぞれがスマートフォンを操作している

日本は、「家族と一緒にいてもそれぞれが自分の携帯電話やスマートフォンを操作している」ことが、「よくある」「たまにある」と回答した割合が小中学生とも約6割と、4か国中最も高かった（図29）。「私が、親（保護者）と話そうとすると、親は「時間がない」、「いま忙しい」などと言う」ことが、「よくある」「たまにある」と回答した割合は約4割で、こちらも4か国中最も高かった（図30）。

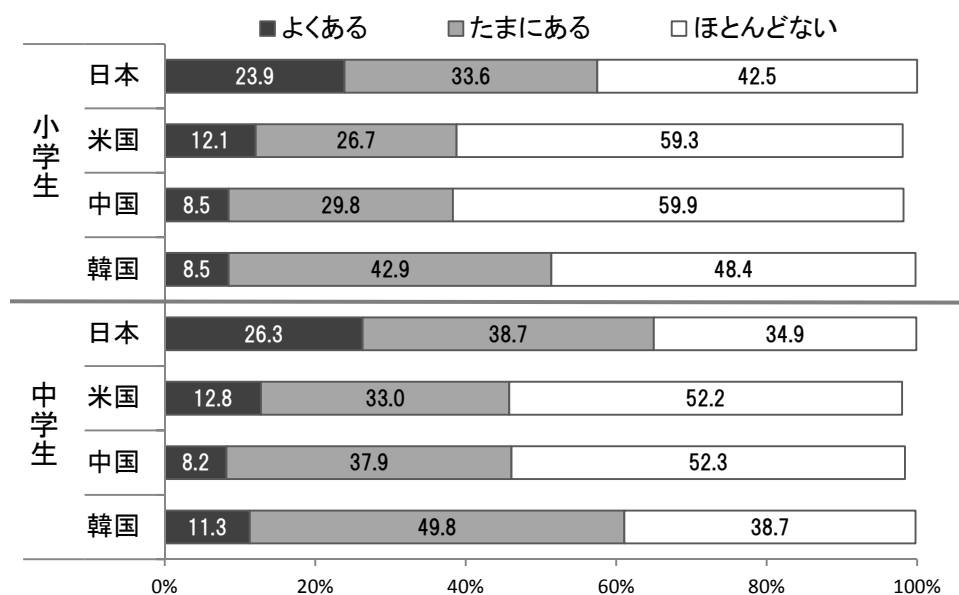


図29 家族と一緒にいてもそれぞれが自分の携帯電話やスマートフォンを操作している

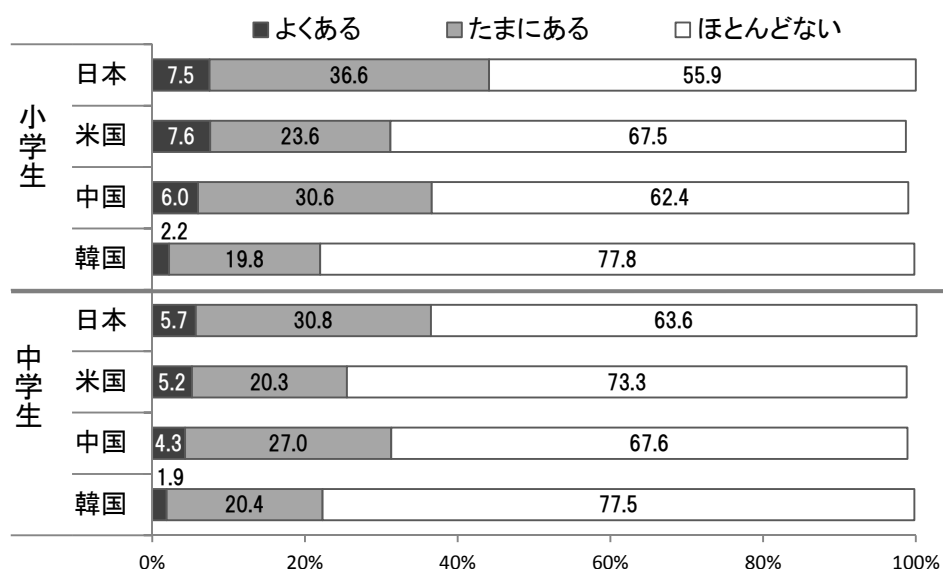


図30 私が、親（保護者）と話そうとすると、親は「時間がない」、「いま忙しい」などと言う

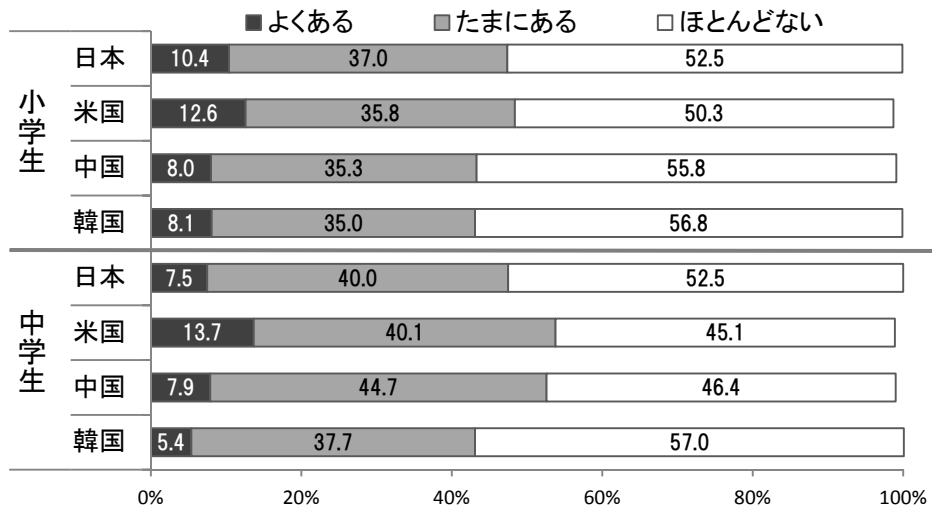


図 31 親(保護者)は携帯電話やスマートフォンを使用しながら私と話す

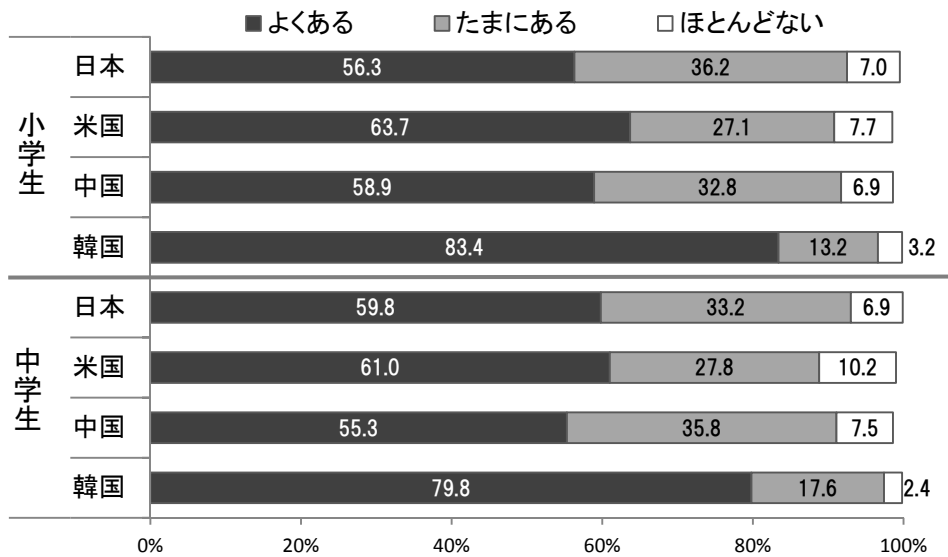


図 32 親(保護者)は真剣に私の話を聞いてくれる

9 「親(保護者)は携帯電話やスマートフォンを使用しながら私と話す」ことが「よくある」ほど、「親(保護者)といるのが好きだ」の肯定率が低い

4か国とも「親(保護者)は携帯電話やスマートフォンを使用しながら私と話す」ことが「よくある」と回答した者ほど、「家族と一緒にいてもそれぞれが自分の携帯電話やスマートフォンを操作している」ことが「よくある」と回答した割合が高く、「家族と食事や団らんのときでもよく携帯電話を操作する」の肯定率も高かった(図34~35)。

また、日本と中国では、「親(保護者)は携帯電話やスマートフォンを使用しながら私と話す」ことが「よくある」と回答した者ほど、親と話すのが「とても好き」、「親(保護者)と一緒にいるのが好きだ」、家族と一緒にいるのが「とても楽しい」と回答した割合が低かった(図36~38)。

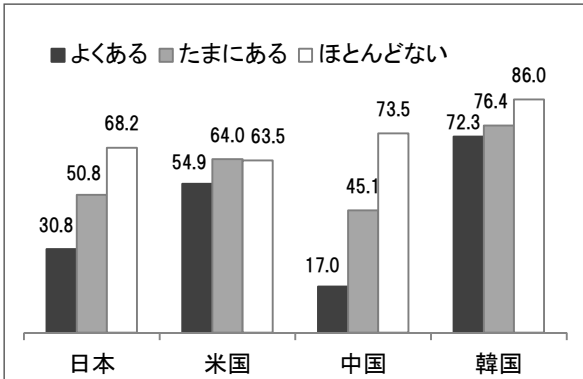


図 33 「親(保護者)はスマートフォンを使用しながら私と話す」×「親(保護者)は真剣に私の話を聞いてくれる」(「よくある」と回答した割合)

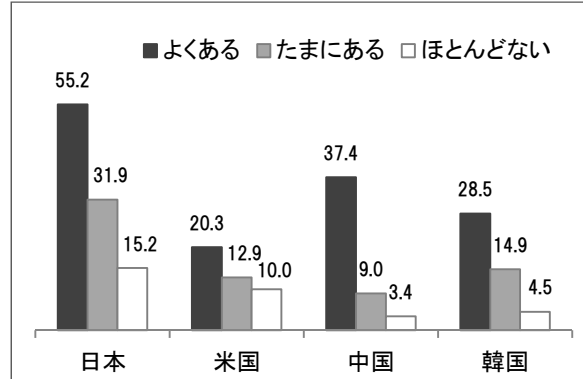


図 34 「親(保護者)はスマートフォンを使用しながら私と話す」×「家族と一緒にいてもそれぞれが自分の携帯電話やスマートフォンを操作している」(「よくある」と回答した割合)

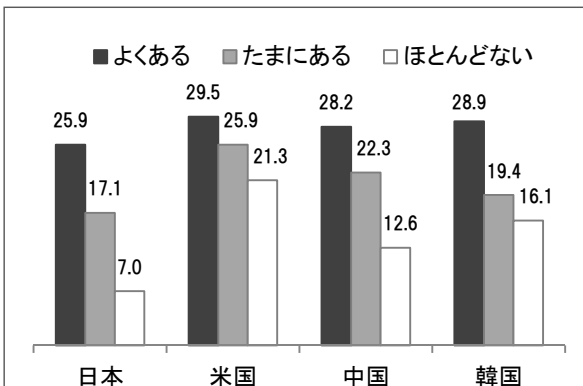


図 35 「親(保護者)はスマートフォンを使用しながら私と話す」×「家族と食事や団らんのときでもよく携帯電話を操作する」(「あてはまる」「まああてはまる」と回答した割合)

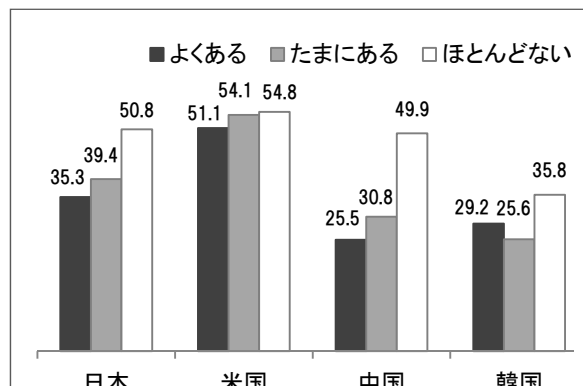


図 36 「親(保護者)はスマートフォンを使用しながら私と話す」×「親(保護者)と話すのが好きか」(「とても好き」と回答した割合)

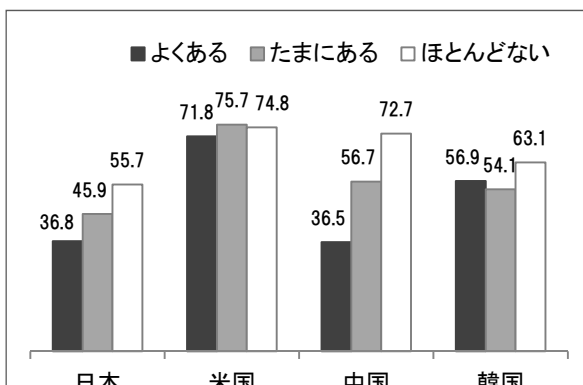


図 37 「親(保護者)はスマートフォンを使用しながら私と話す」×「私は親(保護者)と一緒にいるのが好きだ」(「そうだ」と回答した割合)

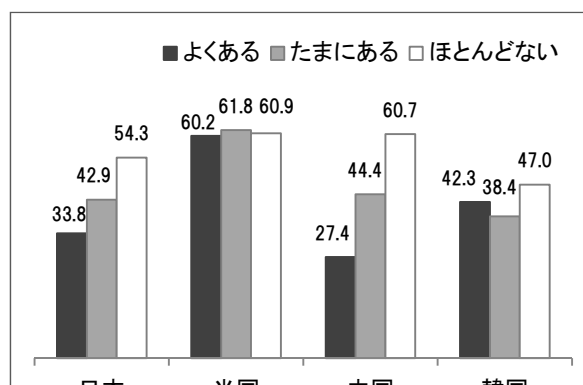


図 38 「親(保護者)はスマートフォンを使用しながら私と話す」×「家族と一緒にいるのが楽しいか」(「とても楽しい」と回答した割合)